



LOMEO  
PARADISO

# 100年続くエンターテインメントを福島から

## LOMEO PARADISO 第2回公演「八犬伝」

2014年5月3日(土) 4日(日) at 福島テルサ

脚本・演出: 大信ペリカン (満塁鳥王一座)  
音楽製作: ロメオト (nappo, SHINYA (佐藤真也), YO, PELI)  
振付: ロメオドリ (TOMOKI, KENTO)  
舞台美術: ロメオステージ (YODO, PELI)  
照明: 鷹由佳里 (満塁鳥王一座)  
音響: 鈴木潤 (ズン ジャパン コミュニケーション)  
衣裳・メイクアップ: 佐藤愛美 (夢精ラヂヲ)  
制作・プロデュース: ロメオ株式会社  
宣伝写真: 菅野明・菅野佑哉 (フォトスタジオ ライト)  
広報・宣伝映像: bambooyoudo  
Support Cast: KINO, JASS

主催: NPO法人ふくしま新文化創造委員会  
企画: ロメオ株式会社

特別協賛: 仙台コカ・コーラボトリング  
株式会社ぶらっとWeb放送

協賛: 福島リコピー販売株式会社、東北自興株式会社  
福島酸素株式会社

後援: 福島県、福島民報社、福島民友新聞社、ラジオ福島  
福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島  
シティ情報ふくしま、ふくしまFM、FM-POCO (順不同) 他

NPO法人ふくしま新文化創造委員会では、今後もふくしまに「誇り」と「郷土愛」を育む活動に、皆さまからのご支援をお待ちしております。

●郵便局払い込み口座 02280-4-114740  
NPO法人 ふくしま新文化創造委員会  
トクビ)フクシマシンパンカンソウワインカイ

●他銀行からの振込みの場合  
■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900  
■店番 229 ■預金種目 当座  
■店名 ニニ九 店 (ニニキユウ店) ■口座番号 0114740

Official Guidebook

ロメオパラディソ「八犬伝」公式ガイドブック



LOMEO  
PARADISO

2nd

ロメオパラディソ  
第二回公演

# 八犬伝

絶望のなかに放たれた  
8つの希望。  
未来を変える男たちが  
今ここに集う!

2014

5/3

SAT

5/4

SUN

at Fukushima Terrsa



LOMEO  
PARADISO



## 誇りある“カッコいいふくしま”に

本日は、ロメオパラディッソ2nd『八犬伝』にご来場いただきまして誠にありがとうございます。キャスト、スタッフ、関係者一同を代表致しまして重ねて御礼を申し上げます。

昨年の11月16日、ロメオパラディッソ旗揚げ公演時には、ここ福島から男達の本気で挑む熱い姿と真っ直ぐさに笑いあり涙ありの舞台、昼夜2公演にて1450名ものご来場をいただき無事開催する事ができました。

そこから半年、早くも震災から3年が過ぎ、震災・原発事故の風化が加速するなかで、私を含め被災者の暮らしは未だ先の見えな状況が続く、除染や帰還の計画ばかりが先行するなか、まだまだ学校や住居も仮設での生活が続いています。

そんな中でも、遅く生きる子ども達、さらにその次の世代に、この先長く続くであろう原発事故のような深く重く不幸な福島だけを背負わず事なく、このようなエンターテインメントを通し"カッコいいふくしま"に誰もが明るい未来を描き、ここふくしまに"誇り"と確固たる"郷土愛"を育み、残す事も私たち世代の役割だろうと思います。

そして今回、第2期生を迎えさらにパワーアップしたロメオパラディッソが演じるのは、古典ファンタジーで有名な『八犬伝』。このストーリーのようにロメオパラディッソ立ち上げ当初より、一人また一人とキャスト、スタッフ達が何かの運命的な力に導かれ、まるで八犬士が集まって来るかの様にここに集った、この事にもすごいパワーを感じています。さらにきっと彼らと、ここに集った皆様こそが、共に今後より良い未来に導いてゆけるのだらうと心から感じております。

まだまだ、未熟なロメオパラディッソではございますが、今後とも末永く皆様に愛していただける事を強く願っております。

本日は、短い時間ではございますがロメオパラディッソ2nd『八犬伝』を、どうぞ最後までお楽しみくださいませ。

NPO法人ふくしま新文化創造委員会 代表理事  
佐藤 健太



from Director of LOMEO PARADISO



## えにし 「縁」

南総里見八犬伝は曲亭馬琴が28年の歳月を費やして完成させた、言わずと知れた我が国古典ファンタジーの名作ですが、その刊行が始まった年は今からちょうど200年前の1814年のことです。

第2回公演の題材がちょうど200年前の作品だったことは正直まったくの偶然だったのですが、100年続く文化を標榜するロメオパラディッソが切り良い数字で「八犬伝」を選択したことには、きっとなにかの導きがあったに違いないと考えてしまいます。

というのも芸術作品の創作の場においては、そういった“縁”がしばしば発生するからで、そもそも創作そのものが多くの“縁”によって成立するものであるからなのです。

本作は歌ありダンスあり殺陣ありの総合エンターテインメント演劇なので、当然それを創るためには数多くのクリエイターたちが関わっています。役者はもちろん作曲家、ダンスの振付を行うコレオグラファー、殺陣師、裏方関係のプランナーや技術者、来場者に対応する表方、そしてそれらを総合的に掌握するプロデューサー、ひとつひとつを挙げるには限りない数の人々の知恵や技術、そして努力が、この作品には詰まっています。もし、このうちのただ一人が違っていても、作品内容が大きく違ったものになったでしょう。



光り輝く“玉”を持った人々が、福島で出会い、福島で一つの作品を創作し、福島から発信する。数多くの“縁”によって産みだされた本作が、満ち欠けを繰り返しながら優しく夜空に光る月のように、ここ福島の地を照らし続けることを願ってやみません。

そして、本日も来場の皆さまとの出会いが、もっとも大きな“縁”に導かれたものであることを強調いたします。街ですれ違えば他人同士のお客さまどうしがともに一つの時間と経験を共有する、というのは井上ひさしさんの受け売りですが、そんな“縁”に充ち満ちた奇跡の空間が劇場なのです。

本日はご来場誠にありがとうございました。ごゆっくりお楽しみ下さい。

脚本・演出  
大信ペリカン (劇団「満塁島王一座」主宰)

Scenario and Direction by Pelican Onobu

